

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



女子団体決勝＝日本対韓国

全国空手道選手権大会

(7月1日、日本武道館)

組手・形の優勝者＝左から栗原一晃、
根本敬介、高橋優子、中町美希





男子日本選手団

第 15 回世界剣道選手権大会

団体 男女ともに日本が優勝

個人戦は高鍋進と佐久間陽子が世界一に



女子日本選手団

第15回世界剣道選手権大会を振り返って

国際剣道連盟事務総長補佐
全日本剣道連盟国際部門主幹
黒瀬有申

国際剣道連盟主催の第15回世界剣道選手権大会が、5月25～27日の3日間、イタリアのノヴァラ市で開催された。世界剣道選手権大会は1970年に第1回大会が日本で開催されて以来、3年に1度開催されており、今回は節目の15回目にあたる。

別資料に示すように、第1回の大会では17カ国・地域の参加があり、その後、回を重ねるごとに参加国・地域は増加し、今回、第15回世界剣道選手権大会には史上最多の48カ国・地域が参加した。

第1回大会が開催された1970年には、同時に国際剣道連盟（FIK）も設立された。設立当時、国際剣道連盟の加盟国・地域数は17であったが、今大会に先立ち、5月24日に開催された国際剣道連盟の総会では新規3カ国（ラトビア、リトアニア、エクアドル）の加盟承認が行われ、現在、国際剣道連盟の加盟団体は52カ国・地域となった。

また、剣道の組織団体は存在しているが、いまだ国際剣道連盟に加盟していない国・地域は50を数え、現在、世界では100以上の国・地域で剣道が行われており、剣道の国際的普及は着実に進んできていると言える。

剣道の世界選手権大会では、4つ

の種目が正式に選手権として行われている。それは男子個人選手権、男子団体選手権、女子個人選手権、そして女子団体選手権であり、これらを3日間の日程で行っている。参加人数の関係で、初日に男子個人戦、2日目に女子個人戦と団体戦、そして

3日目にメインイベントとなる男子団体戦が行われている。今回の大会には最終エントリーの時点（2月28日）で女子個人132名、男子個人190名、女子団体30チーム、男子団体47チームの参加が受け付けられた。団体戦は1カ国1チームの

世界選手権大会参加国

現 加 盟 国	年 度 回 開 催 国	1970 第1回 日本	1973 第2回 ブラジル	1976 第3回 ドイツ	1979 第4回 日本	1982 第5回 ブラジル	1985 第6回 フランス	1988 第7回 韓国	1991 第8回 韓国	1994 第9回 フランス	1997 第10回 日本	2000 第11回 フランス	2003 第12回 ドイツ	2006 第13回 台湾	2009 第14回 ブラジル	2012 第15回 イタリア
☆	アンドラ				●	●	●	●	●	●	●	●	●	△	●	●
☆	アルゼンチン				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	アルバーバ															
☆	オーストラリア	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	オーストリア															
☆	ベルギー	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
☆	ブラジル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
☆	ブルガリア															
☆	カナダ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	チリ															
☆	チャイニーズタイペイ、台湾	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	チェコ共和国									●						
☆	デンマーク								●		●	△	●			
☆	ドミニカ共和国														●	
☆	フィンランド								●	●	●	●	●	●	●	●
☆	フランス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	ドイツ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	イギリス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	ギリシャ															
☆	ハワイ	●				●										
☆	香港		(●)	●	●		●	●								
☆	ハンガリー								●	●	●	●	●	●	●	●
☆	アイスランド															
☆	アイルランド															
☆	イタリア			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	日本	●	●					●						●	●	●
☆	韓国	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	ルクセンブルク															
☆	マカオ															
☆	マレーシア		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	メキシコ					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	モロッコ	●	●	●												
☆	オランダ	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	ニュージーランド	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	ノルウェー							●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	沖縄	●														
☆	ポーランド					●	●		●	●	●		●	●	●	●
☆	ポルトガル		●		●	●	●		●					●	●	●
☆	ルーマニア										●		△	●	●	●
☆	ロシア															
☆	シンガポール			●					●	●	●	●	●	●	●	●
☆	南アフリカ共和国										●	●	●	●	●	●
☆	スペイン				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	スウェーデン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	スイス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	タイ															
☆	アメリカ合衆国	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
☆	ベネズエラ															
☆	ユゴスラビア→セルビア									●	●	●	●	●		
☆	中華人民共和国														●	●
☆	イスラエル														●	●
☆	セルビア														●	●
☆	モンテネグロ														△	
☆	エクアドル															●
☆	リトアニア															●
☆	ラトビア															●

参加人数 144 100 215 285 300 490 360 471 550 436 522 585 586 551 713
 (選手団&役員、最終エントリー時点)
 (●)=役員のみ参加 △=最終エントリーしたが結局大会参加0人だった国

みの参加が許されており、最小5名、最大7名の構成で、毎試合ごとに5名を選考して各国の代表チームとして試合に臨むことになっている。

大会は、ノヴァラ市のスポーティングビレッジ体育館で開催された。市の人口は10万人程度であるが立派な施設で、広さも十分あり、観客席も4000人ほど収容可能な体育館である。会場の準備はイタリア剣道連盟(CIK)が主管国として取り仕切っている、運営は大きな問題もなくスムーズに行われた。

試合場は、4面が横一列に配置され、スコアボードには60インチの液晶ディスプレイが採用され、スコアがコンピュータで集計された。これは初めての試みである。ただし、しばし中断もあり、動作が完全でなかったことも事実であった。

ノヴァラ市には、参集した各国選手団が一同に宿泊できるような大規模なホテルがなく、各国選手団は10以上のホテルに分かれて滞在した。したがって大会期間中はバスによるトランスポートが重要となり、この点をノヴァラ市がサポートしてくれたことはありがたいことだ

った。実際、多くの市バスがホテルから選手団を乗せて大会会場や練習会場の間を往復した。

試合の勝敗を公正に判定することが責務とされる審判団は、奥島快男審判長以下41名が世界各国より参集し、事前に2月、成田市において有効打突の見極めを主目的として、2日間の審判講習を行い、さらに大会の前々日、5月23日に、大会会場において1日講習会を開催して、審判員の意思統一を図った。可能な限り万全を尽くして大会に臨んだ。しかし、世界中から参集した審判員の審判技術の向上は、今後とも重要な課題となっている。

一方、大会に選手として臨む日本選手は、全日本剣道連盟が2011年度に実施した強化訓練講習会(男子8回、女子7回)を経て2月末、第15回世界剣道選手権大会の最終エントリーに併せて選考された。

日本選手団は別紙に示すように、浅野修強化委員長、藤原崇郎総監督以下29名(うち、男子選手9名、女子選手10名)で構成され、選手決定後、大会まで、事前の強化合宿を男子4回、女子4回それぞれ国内にて

第15回世界剣道選手権大会日本選手団

◎強化委員長/選手団長 浅野 修

◎総監督 藤原 崇郎

◎男子監督 塚本 博之

◎男子コーチ 寺地賢二郎

◎男子コーチ 栄花 直輝

◎男子代表選手9名(五十音順)

内村 良一(32) 東京都

大石 寛之(27) 大阪府

大城戸 知(27) 大阪府

勝見 洋介(25) 神奈川県

木和田大起(33) 大阪府

正代 賢司(31) 神奈川県

高鍋 進(35) 神奈川県

畠中 宏輔(25) 東京都

古川 耕輔(32) 大阪府

◎女子監督 宮崎 正裕

◎女子コーチ 竹中健太郎

◎女子コーチ 田中百合香

◎女子代表選手10名(五十音順)

川越 愛(25) 兵庫県

黒河 香菜(25) 愛媛県

小津野祐佳(31) 岡山県

佐久間陽子(26) 山形県

下川 美佳(31) 鹿児島県

正代小百合(26) 東京都

高橋 萌子(18) 東京都

鷹見由紀子(26) 千葉県

松本 弥月(20) 東京都

山本真理子(23) 大阪府

◎ドクター 秋山知子

◎トレーニングコーチ 小澤 聡

消化し、万全を期して大会に臨んだ。

日本選手団は5月17日に現地ノヴァラ市に到着し、大会までの1週間、調整を行った。日本とイタリアの間には7時間の時差があり、体調を整えることが重要な点の一つとなっており、早めに現地入りができたので調整もスムーズに出来たと言える。

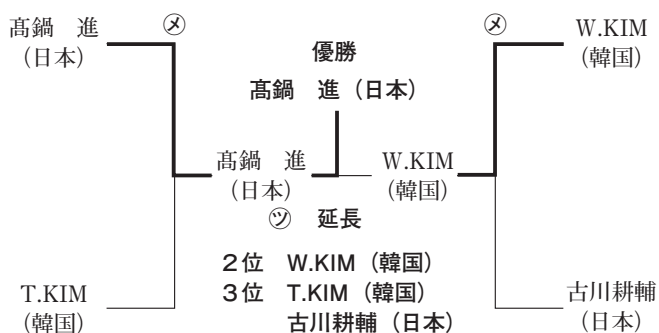
大会の成績については、初日の5月25日、開会式に続く男子個人戦に日本選手4名が出場し、高鍋進選手が決勝戦で延長の末、「突き」を決めて韓国のW・KIM選手を降し、優勝した。そして古川耕輔選手が3位に入賞した。2位、3位には韓国勢が入り、日本と韓国との間で力の



(右) 開会式で挨拶をする
武安義光国際剣道連盟会長
(上) 日本選手団の入場

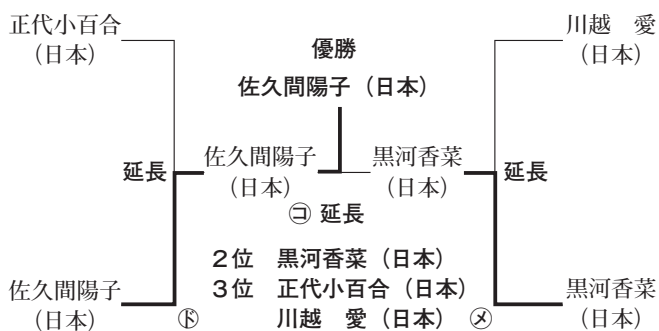


男子個人決勝トーナメント



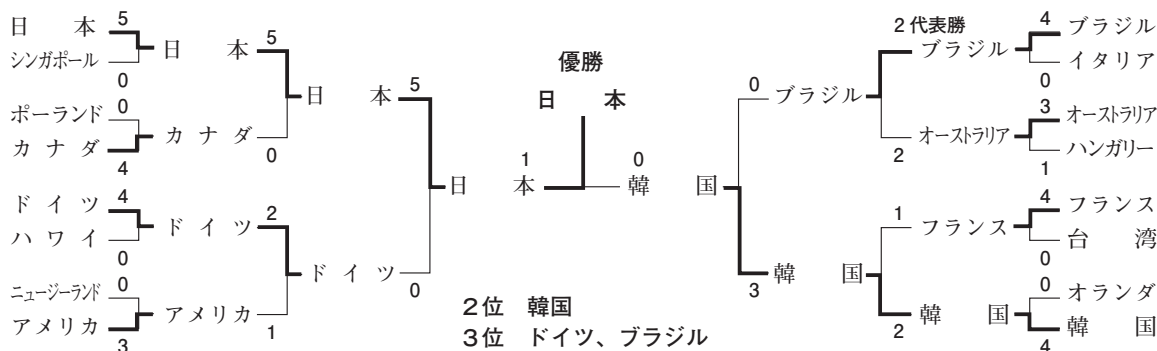
差が拮抗してきている感がある。なお、大城戸知選手は3回戦で韓国のT・KIM選手に、畠中宏輔選手は4回戦でW・KIM選手に敗れた。大会2日目の5月26日、女子の個人戦と団体戦が行われた。個人戦は日本選手4名が出場。日本人同士の決勝戦となり、佐久間陽子選手が延長の末、“小手”を決めて優勝した。2位は黒河香菜選手、3位は正代小百合選手と川越愛選手が入賞し、日

女子個人決勝トーナメント

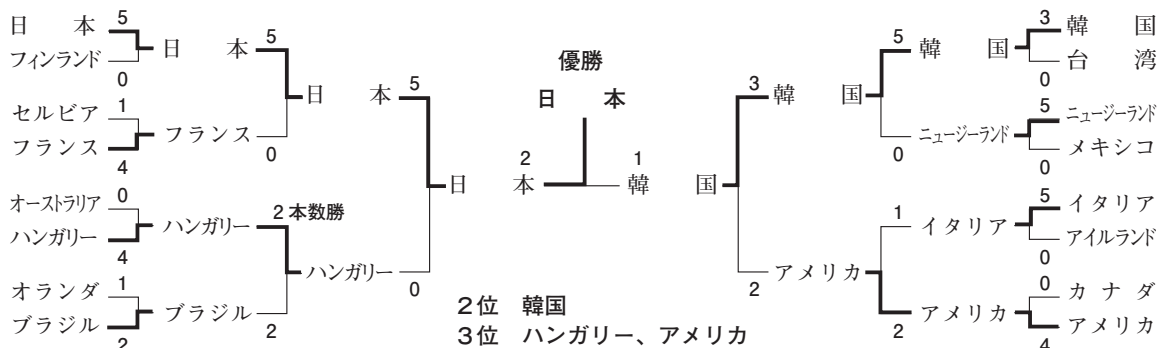


本勢が上位を独占した。午後に行われた女子団体戦は、日本が決勝戦で韓国を1-0で降して優勝、3位にはブラジル、ドイツが入った。団体決勝の勝者数のみを見れば厳しい数値であるが、内容的には日本勢の実力が十分発揮されたと見える。しかし、韓国やブラジル等も実力を付けてきており、今後は接戦になる可能性が否定できない。大会3日目最終日の5月27日、男

女子団体決勝トーナメント



男子団体決勝トーナメント



子の団体戦が行われ、日本が決勝戦で韓国を2-1で降して優勝した。3位には米国と、ヨーロッパ勢からハンガリーが入賞した。

日本選手は総じて良く健闘したと言える。ただ各国の追い上げも厳しく、特に韓国は技術レベルが上がってきている。ただ、会場内の観客も含め、剣道に必要なマナーが欠けた場面が見られたことは残念だった。

また、全日本剣道連盟から指導者を招聘するなど、指導に力を入れている国、もしくはその国の指導者がしっかりしている国はレベルが上がってきている。その状況が大会を通じて多々見受けられ、今後、更なる剣道の発展が期待出来るであろう。

剣道や他の武道は、単にスポーツとして勝ち負けだけを競うだけのものではないことは周知であるが、国際剣道連盟は2006年にスポーツアコード（当時はGAISF）に加盟した。グローバルな情報化時代において、世界のスポーツ界における国際連盟の地位が、他の類似団体から脅かされるような状況が見受けられ、現実問題も起きている。スポーツアコードへの加盟は「KEND

0」という文字を国際的な組織に登録することであり、剣道の文化を守るためにも、必要な流れに乗ったことになるであろう。

剣道の本質を変化させることなく、世界に普及させることは重要なことであるが、一般には剣道の勝敗の決し方が難しく、判りづらいのも事実である。剣道が持つ競技性は看板でもあるので、審判技術を含め、方向性を間違えずに更なる検討も必要になってくるであろう。

今後、普及が進むにつれて、技術面だけでなく、精神的な面やマナー、



男子団体予選。日本対南アフリカ

世界剣道選手権大会概要

回 開催年	主管国 (開催国)	参加 団体数		1 位	2 位	3 位	3 位
第 1 回 1970 年	日本	17	団体	日本	チャイニーズタイペイ (台湾)	ブラジル	沖縄
			個人	小林三留 (日本)	戸田忠男 (日本)	谷口安則 (日本)	太田友康 (日本)
第 2 回 1973 年	アメリカ	17	団体	日本	カナダ	アメリカ	ハワイ
			個人	桜木哲史 (日本)	矢野博志 (日本)	藤田徹 (日本)	李種林 (韓国)
第 3 回 1976 年	イギリス	20	団体	日本	カナダ	アメリカ	チャイニーズタイペイ (台湾)
			個人	横尾英治 (日本)	小野邦之 (日本)	細田鍾郎 (日本)	呉建堂 (チャイニーズタイペイ台湾)
第 4 回 1979 年	日本	21	団体	日本	韓国	アメリカ	ハワイ
			個人	山田博徳 (日本)	古川和男 (日本)	相川博 (日本)	寺田幸司 (日本)
第 5 回 1982 年	ブラジル	20	団体	日本	ブラジル	アメリカ	韓国
			個人	蒔田実 (日本)	小坂達明 (日本)	岡嶋恒 (日本)	安ヶ平博 (日本)
第 6 回 1985 年	フランス	25	団体	日本	ブラジル	韓国	カナダ
			個人	香田郡秀 (日本)	小川春喜 (日本)	J.C. パク (韓国)	S.I. キム (韓国)
第 7 回 1988 年	韓国	23	団体	日本	韓国	カナダ	ブラジル
			個人	大城戸功 (日本)	林朗 (日本)	坂田秀晴 (日本)	K.N. キム (韓国)
第 8 回 1991 年	カナダ	29	団体	日本	韓国	カナダ	チャイニーズタイペイ (台湾)
			個人	武藤士津夫 (日本)	坂田秀晴 (日本)	山本雅彦 (日本)	清水新二 (日本)
第 9 回 1994 年	フランス	32	団体	日本	韓国	カナダ	チャイニーズタイペイ (台湾)
			個人	高橋英明 (日本)	武井幸二 (日本)	平野誠司 (日本)	栄花直輝 (日本)
第 10 回 1997 年	日本	34	男子団体Ⅰ	日本	韓国	ブラジル	チャイニーズタイペイ (台湾)
			男子団体Ⅱ	ハンガリー	スウェーデン	イタリア	ルーマニア
			男子個人	宮崎正裕 (日本)	宮崎史裕 (日本)	石田利也 (日本)	朴相燮 (韓国)
			女子団体選抜 (3 段以上)	日本 B	日本 A	アメリカ B	韓国 A
			女子個人選抜 (3 段以上)	木村美姫 (日本)	茂木さおり (日本)	W. ナカノ (カナダ)	趙慧廷 (韓国)
			女子個人選抜 (2 段以下)	高嶋寿美 (日本)	M. オナカ (ブラジル)	李恩貞 (韓国)	權珍英 (韓国)
第 11 回 2000 年	アメリカ	36	男子団体	日本	韓国	カナダ	ブラジル
			男子個人	栄花直輝 (日本)	竹中健太郎 (日本)	染谷恒治 (日本)	S.S. ホン (韓国)
			女子団体 (準公式)	日本	ブラジル	アメリカ	カナダ
			女子個人	河野朋子 (日本)	馬場恵子 (日本)	矢野比路代 (日本)	朝比奈静香 (日本)
第 12 回 2003 年	イギリス	41	男子団体	日本	韓国	アメリカ	イタリア
			男子個人	佐藤博光 (日本)	岩佐英範 (日本)	佐藤充伸 (日本)	K.B. リン (韓国)
			女子団体	日本	韓国	カナダ	チャイニーズタイペイ (台湾)
			女子個人	馬場恵子 (日本)	坪田祐佳 (日本)	岡田圭 (日本)	朝比奈静香 (日本)
第 13 回 2006 年	チャイニーズ タイペイ	44	男子団体	韓国	アメリカ	日本	チャイニーズタイペイ (台湾)
			男子個人	北条将臣 (日本)	田中武志 (日本)	S.H. カン (韓国)	G.H. オウ (韓国)
			女子団体	日本	韓国	ドイツ	カナダ
			女子個人	杉本早恵子 (日本)	古室可那子 (日本)	稲垣惠理 (日本)	下川美佳 (日本)
第 14 回 2009 年	ブラジル	38	男子団体	日本	アメリカ	韓国	ブラジル
			男子個人	寺本将司 (日本)	B.H. パク (韓国)	K.H. リー (韓国)	C.K. チョイ (韓国)
			女子団体	日本	韓国	アメリカ	ブラジル
			女子個人	鷹見由紀子 (日本)	庄島幸恵 (日本)	新里知佳野 (日本)	E. タカシナ (ブラジル)
第 15 回 2012 年	イタリア	48	男子団体	日本	韓国	ハンガリー	アメリカ
			男子個人	高鍋 進 (日本)	W. キム (韓国)	T. キム (韓国)	古川耕輔 (日本)
			女子団体	日本	韓国	ドイツ	ブラジル
			女子個人	佐久間陽子 (日本)	黒河香葉 (日本)	正代小百合 (日本)	川越 愛 (日本)



【日本選手団成績】
 ▼男子団体 優勝
 ▼女子団体 優勝、小津野祐佳 Ⅱ
 敢闘選手
 ▼男子個人 高鍋進 Ⅱ優勝、古川耕輔 Ⅲ3 位、畠中宏輔 Ⅱ敢闘選手、大城戸知 Ⅱ敢闘選手
 ▼女子個人 佐久間陽子 Ⅱ優勝、黒河香葉 Ⅱ2 位、正代小百合 Ⅲ3 位、川越愛 Ⅲ3 位

文化面の要素が同時に伝達されながら普及していくことがより必要になるであろう。
 第15回世界剣道選手権大会初日の前日、5月24日に開催された国際剣道連盟総会では、3年後の2015年、第16回剣道世界選手権大会の東京開催が決議された。世界剣道選手権大会は1970年の第1回大会が日本武道館で開催されて以来、45年ぶりに東京での開催となる。

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる
剣道修錬を集大成した
本格的剣道修行論

好評発売中!



（写真提供：剣道時代）

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

（四六判・上製・344頁）

剣の清流

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

（四六判・上製・268頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）

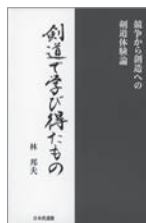


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

（四六判・上製・298頁）

全国空手道選手権大会

一般男子組手、

根本敬介が優勝

2年ぶり
2度目



内閣総理大臣杯を手にする根本選手



組手一般男子決勝Ⅱ根本対忠鉢
根本（左）の中段突きが刺さる

第55回全国空手道選手権大会（主催Ⅱ日本空手協会）は6月30日（東京体育館）、7月1日（日本武道館）の2日間にわたって行われ、組手と形の18種目で熱戦が繰り広げられた。

男子は、組手で根本敬介（指定）が2年ぶり2度目、形で栗原一晃（指定）が4連覇を果たした。女子は、組手で高橋優子（指定）が6年ぶり2度目、形で中町美希（指定）が初優勝を遂げた。

◇組手一般男子

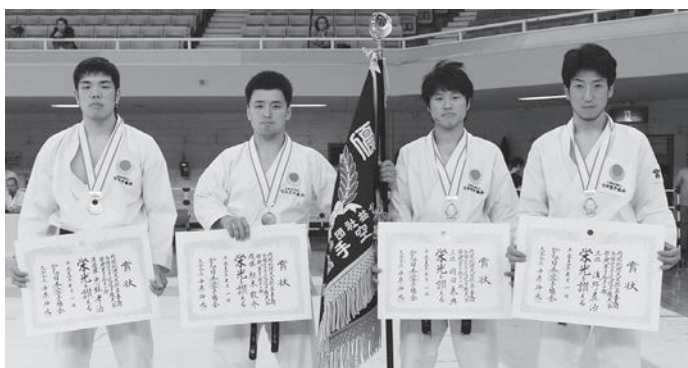
112名が出場、試合はトーナメント方式で行われ、準決勝までは試合時間3分間一本勝負、決勝は5分間三本勝負で争われた。

日本空手協会の現役世界王者として期待が集まる飯村吏毅哉（指定）は、初戦で蹴りの強打による反則をとられ、まさかの敗退。

準々決勝、根本敬介（指定）と桑田力（指定）の対戦は、根本が再試合で中段蹴りと上段突きを決めて勝利。忠鉢考治（本部推薦）対志水亮介（指定）は、忠鉢が突き技2つで志水を退けた。その他、勝ち上がったのは、浅野真治（宮城）、岡田泰典（本部推薦）。前回優勝の栗原一晃（指定）は、準々決勝で浅野に敗れた。

準決勝、根本対岡田。根本は岡田の中段突きを払って上段突きに返し、技有りを奪う。その後も返し技の上段突きを決めて決勝の舞台へ。忠鉢と浅野の戦いは、終盤で上段突きを決めた忠鉢が、辛くも判定で勝利した。

決勝、根本は寄り足でじわじわと忠鉢との間合を詰める。場外間際ま



組手一般男子入賞者＝左から中鉢、根本、岡田、浅野

で追いつめた根本は逆突きを連続して放ち、忠鉢の中段を掴る。これが技有りとなり、先制した根本はその後も試合を有利にすすめて、足払いから中段突き、返し技の上段突きを決めて忠鉢との差を広げる。試合はそのまま時間となり、根本が2年ぶり2度目の優勝を手にした。

○優勝Ⅱ根本敬介選手（指定）

「決勝は、リードを奪ってから慎重になりすぎて、自分から出られなく

なりました。やられてしまうかなとも思いました」

滴る汗もそのままに、試合内容がこう振り返った。今回2度目とあつて、激闘の後にもかかわらず、いたって冷静な様子。自身も、前回優勝したときは無我夢中だったが、今回は少し落ち着いて出来たと語る。

33歳、日本空手協会の指導員になつて11年目。試合中は教え子である子供たちの、大きな声援を浴びた。

「先生も頑張っているぞ! というところがみせられてよかったです」
満面の笑みを浮かべると、仲間が作る大きな祝福の輪に吸い込まれていった。

◇形一般男子

103名が出場。試合は3回戦までがトーナメント方式、準決勝以降は勝ち残った8名により、得点方式による順位決定戦が行われた。

順位決定戦では、まず、2大会連続準優勝の丸岡直人（指定）が壮鎮で42・1点を記録。続く演武は、その丸岡を抑えて連覇を続けてきた栗原一晃（指定）。得意形の壮鎮で臨んだ栗原は、途中でバランスを崩す



形一般男子優勝Ⅱ栗原一晃（指定）・壮鎮



形一般男子準優勝Ⅱ上田大介（指定）・壮鎮

場面もみられたが、42・7点の高得点を記録する。その後、上田大介（指定）が重厚感ある壮鎮を演武し、観客を唸らせるも42・2点で栗原に及ばず。結果、栗原が4年連続6回目の優勝を果たした。

○優勝Ⅱ栗原一晃選手（指定）

優勝はしたもの、内容については、納得のいかない様子だった。「怪我が多く、試合前からかなりのプレッシャーを感じていました。マ



形一般男子3位Ⅱ丸岡直人（指定）・壮鎮

ットも意外に固く感じました」

試合前、足の肉離れを起こしてしまい本調子ではなかったが、組手の試合にも出場した。ときおり足を引きずる場面もあった。

「言い訳はしたくありません。次回はコンディションを整え、万全な状態で試合に臨みます」

◇組手一般女子

61名が出場。試合はトーナメント方式で行われ、試合時間3分間一本勝負で競われた。

準決勝には優勝経験のある高橋優子（指定）と田邊梨加子（指定）、準々決勝で前回優勝の椎名舞（指定）を退けた青木郁美（山口）と、塚本めぐみ（本部推薦）が勝ち進んだ。

高橋と田邊の試合は接戦となり、再試合にもつれる。高橋は突き技で技有りを奪われるも、起死回生の上



組手一般女子決勝＝高橋対塚本、高橋（右）の上段突きが決まる



「二本」となった高橋（右）の上段蹴り



組手一般女子入賞者＝左から塚本、高橋、田邊、青木

段蹴りを決めて一本勝ちした。一方のブロックでは塚本が青木から上段突きを2回決めて勝利した。

決勝、高橋は蹴り、塚本は突きで攻め合い、一進一退の攻防が続く。再試合となり、開始30秒、高橋が塚本の出端を右上段突きで合わせて技有りを奪う。高橋は巧みな足捌きで塚本の攻撃を凌ぎ、僅差で勝利。6年ぶり2度目の優勝を遂げた。

○優勝Ⅱ高橋優子選手（指定）

決勝は勝ちに徹したのか、さがる場面も少なくなかった。

「ここに立てることがチャンスなので、それを無駄にしないように心掛けた」

最近では指導者としても活躍。「空手の指導のため、明日、チェコに向かいます」

選手としても指導者としても、充実した空手人生を歩んでいる。

◇形一般女子

61名が出場。男子と同様の形式により争われた。

この大会で2連覇していた大島望は競技を退いたため、前回準優勝の中町美希（指定）に注目が集まった。

順位決定戦では、一番手に演武した中町が、安定感のある五十四歩小で41・4点をマーク。その後、影山日向子（中国地区）が41・0点、高木綾乃（指定）が41・1点を記録（ともに五十四歩小を演武）。結果、中町の嬉しい初優勝となった。

○優勝Ⅱ中町美希選手（指定）

「結果は考えずに、やりきりました」

嬉しい涙を流しながら語る。横には前回優勝の大島望さんの姿。決勝前は気持ちの入れ方を教えてくれたそう。1カ月前には出産を経験。愛娘の仁唯那ちゃんを抱くと、試合中の厳しい表情から一転して、優しい母親の顔に変わった。

「子供のために記念に残る大会にしたかったです」

試合に懸ける思いの強さで、念願の初優勝をたぐり寄せた。



嬉しい初優勝となった中町選手。抱いているのは愛娘の仁唯那ちゃん

イギリス人留学生が出場、

雲手で勝負

ローシン・キャンベル選手



では順位決定戦に進出。他の日本人選手が全て、五十四歩小ウズを選択したのに対し、一人だけ雲手で臨んだ。結果は惜しくも4位。しかし、その健闘ぶりに会場から大きな拍手が沸いた。

「とてもいい経験になりました。日本人選手の技の速さが印象に残っています」

凜とした姿で試合を観戦する青い目の女性選手。聞けば、日本空手協会の欧州チャンピオン（形・組手ともに）の経歴をもつとのこと。

一年ほど前に来日し、現在は留学生として筑波大学で勉強中という。今回、茨城県から選出され、初めてこの大会に出場した。

組手は予選落ちだったが、形競技

現在20歳。空手は母国イギリスで、母親や兄と共に7歳から始めた。

「空手の稽古では、努力することの素晴らしさを学びました。人格を鍛える面にも魅力を感じています」

来年も出場して、その実力を存分にみせてほしい。



形一般女子優勝＝
中町美希（指定）・五十四歩小



形一般女子3位＝
影山日向子（中国地区）・五十四歩小



形一般女子準優勝＝
高木綾乃（指定）・五十四歩小



大会結果

個人戦

組手

▽一般男子Ⅱ①根本敬介（指定）②忠

鉢考治（本部推薦）③浅野真治（宮城）、岡田泰典（本部推薦）

▽一般女子Ⅱ①高橋優子（指定）②塚本めぐみ（本部推薦）③青木郁美（山口）、田邊梨加子（指定）

▽高校男子Ⅱ①田中斗暉也（静岡）②吉村拓真（埼玉）③清水芳隆（大阪）、大沢侑矢（静岡）

形

▽一般男子Ⅱ①栗原一晃（指定）②上田大介（指定）③丸岡直人（指定）

▽一般女子Ⅱ①中町美希（指定）②高木綾乃（指定）③影山日向子（中国地区）

▽高校男子Ⅱ①本一将（千葉）②竹中拓海（東京）③掃詰開士（三重）

▽高校女子Ⅱ①古澤香寿美（新潟）②

▽高校女子Ⅱ①岡田汐美（滋賀）②高木葉月（新潟）③和泉知邑（福岡）、松原美咲（大阪）

団体戦

組手

▽都道府県Ⅱ①東京都②群馬県③福岡県

▽一般Ⅱ①二子玉川支部A（東京）②二子玉川支部B（東京）③愛空会（愛知）

▽女子Ⅱ①駒澤大（東京）②鴨空会（東京）③大正大（東京）

▽大学Ⅱ①駒澤大（東京）②国士舘大（東京）③大正大（東京）

▽高校Ⅱ①東洋大牛久高（茨城）②沼

形

▽都道府県Ⅱ①茨城県②千葉県③東京都

▽一般Ⅱ①渋谷空友館A（群馬）②江別支部（北海道）③茨田支部（大阪）

▽女子Ⅱ①駒澤大（東京）②青山学院大（東京）③大阪府本部（大阪）

▽大学Ⅱ①駒澤大（東京）②大正大（東京）③青山学院大（東京）

▽高校Ⅱ①東京都本部（東京）②松商学園高校（長野）③新潟県本部（新潟）

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(さんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

日本武道館

金城 裕

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)



我が空手人生

金澤弘和 著

国際松濤館空手道連盟館長
父の教え、「からて」との出会い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

(四六判・上製・372頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授 菅野 純 著

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

(四六判・上製・410頁)



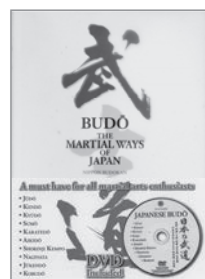
BUDO: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)



マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者 田谷将俊 著

各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



全日本学生柔道優勝大会

東海大が史上初の5連覇

女子は環太平洋大と鹿屋体育大が初優勝

(5人制)

(3人制)



男子決勝代表戦＝東海大・王子谷が日本大・原沢から有効を奪う

平成24年度全日本学生柔道優勝大会(男子61回・女子21回)は、6月23・24日の2日間、日本武道館で開催された。

大会初日には女子5人制と女子3人制が行われ、5人制では環太平洋大学が山梨学院大を破って初優勝を飾り、3人制では鹿屋体育大が名城大に勝って初優勝した。

2日目に行われた男子決勝では、東海大が日本大を降して大会史上初となる5連覇を達成した。

男子

62校がエントリー。7名の点取り式によるトーナメント戦で争われた。

前回優勝の東海大は順当に勝ち進み、4回戦で筑波大に3―1で勝って準決勝へ。前回3位の明治大が桐蔭横浜大を5―1で降して、準決勝で東海大と対戦することとなった。

前回2位の国士舘大も、4回戦、日本体育大に3―2で勝ち、準決勝進出。一方、日本大が天理大を3―2で破り、準決勝に勝ち上がった。

◇準決勝

東海大 2―1 明治大

先鋒 橋本壮市 引分 菅原健志
次鋒 豊田竜太 小内刈○六郷雄平
五将 奥村達郎 引分 兒玉雄一
中堅 王子合剛志 引分 渡辺智斗
三将 野村幸汰 引分 上田轄麻
副将 羽賀龍之介○反則 高橋良介
大将 穴井航史○優勢勝 寺崎達也

先鋒は引分け、次鋒戦は明治大・六郷が小内刈で一本。五将、中堅、三将と勝負がつかず引分け、副将戦は東海大・羽賀が反則勝となる。1―1で迎えた大将戦は東海大・穴井が指導2による優勢勝、辛うじて東海大が決勝に進んだ。

◇準決勝

日本大 3内―3 国士舘大

先鋒 片岡 仁 優勢勝○小川竜昂
次鋒 レイズ・カリス 払巻込○井上貴裕
五将 原沢久喜○反則 春山友紀
中堅 稲田 基○内股 岩尾敬太
三将 中川裕喜○朽木倒 浅沼拓海
副将 古園井新成 引分 羽沢頼誠
大将 制野龍太郎 優勢勝○上杉亮太

先鋒戦は国士舘大・小川が背負を返して有効を奪って勝ち、次鋒戦は国士舘大・井上が払巻込を決めて一本。国士舘大が先制する。

五将は日本大・原沢が反則勝。中堅戦は日本大・稲田が内股で、三将戦は日本大・中川が朽木倒で、それぞれ一本勝して逆転する。副将は引分、大将戦は指導²により国士舘大・上杉が勝ち、結果は3―3となるが、内容差で日本大の決勝進出が決まった。

◇決勝

東海大 3代―3 日本大

先鋒 渡邊勇人 大内刈○原沢久喜
次鋒 王 皓 優勢勝○古園井新成
五将 豊田竜太 優勢勝○中川裕喜
中堅 穴井航史○優勢勝 片岡 仁
三将 王子谷剛志○上四方固 制野孝二郎
副将 長澤憲大 引分 稲田 基
大将 羽賀龍之介○優勢勝 制野龍太郎
代表 王子谷剛志○優勢勝 原沢久喜

先鋒戦、攻める東海大・渡邊に対して、技が出ず中盤に指導を与えられた日本大・原沢だったが、残り時間約1分、大内刈を決めて一本。次



日本大の先鋒・原沢が大内刈を決める



東海大の三将・王子谷が上四方固で一本

鋒戦、東海大・王の攻撃に翻弄され指導を2つ取られた日本大・古園井が、終盤反撃を開始し、終了間際に一本背負投で技有を獲得して勝利。五将戦では、技の出ない東海大・豊田に指導が2つ与えられる。豊田は終盤、払巻込で有効を奪うも、その後さらに指導がつき、日本大・中川が指導3で優勢勝、3―0で日本大が東海大を引き離す。

制野(孝)を上四方固で抑込んで一本。副将戦は両者ポイントを取れず、引分ける。大将戦では東海大・羽賀が内股で攻めたと制野(龍)は技を出すことができず、指導が3つ与えられ、羽賀が優勢勝。3―3で東海大が日本大に追いつく。

◎東海大・上水研一朗監督
「東京大会の準々決勝で明治大に完敗し、これが現実だ、皆その悔しさで頑張っているんだと話しました。選手たちは本当に勝ちたいとか、死にもの狂いで戦うという部分が欠けていましたし、コーチ陣にも私にも逆上^{のぼ}せていたところがあつたように思います。選手たちはそこから一カ月でよく立て直しました。

決勝での最初の3敗は想定していたので、どう巻き返すか問題でしたが、穴井が主将の意地を見せ、相手にプレッシャーを与えました。

5連覇はチーム結成当時から狙うと断言していました。連覇に挑戦できるのはありがたいこと。来年もこの苦しみを味わいたいです」

◎東海大主将・穴井航史選手

「今はやっと終わったという、ほつとした気持ちです。東京大会で負けたことで、一人ひとりの気持ちが変わり、新チームとして挑戦していくということを再確認して今日の大いに臨むことができました。決勝では、五将までの流れは想定していたので、絶対に自分が流れを変えたいと思って闘いました」

◎東海大・王子谷剛志選手

「決勝には自分が勝たないとチームは勝てないという気持ちで臨みました。代表戦については一週間前から準備をしておけと言われていました。代表戦は自分との闘いです。とにかく恐れず、全力で闘いました」



5連覇を達成した東海大

女子5人制

33校がエントリー。5名の点取り

式によるトーナメント戦で争われた。準決勝には、前回優勝の山梨学院大、前回2位の環太平洋大、前回3位の東海大、帝京大が勝ち進んだ。

準決勝、山梨学院大と帝京大の対戦では、まず先鋒戦で山梨学院大・加賀谷が指導2による優勢勝。次鋒は引分け、中堅戦は帝京大・前田が払腰で有効を奪って勝ち、1―1となる。副将戦は山梨学院大・佐野が一本勝、大将戦でも山梨学院大・山部が指導2による優勢勝。結果、3―1で山梨学院大が今回も決勝進出を決めた。

一方、環太平洋大対東海大では、先鋒から副将まで、環太平洋大が一本勝。大将戦は指導2による環太平洋大・安松の優勢勝となり、環太平洋大が5―0で決勝に勝ち進んだ。

◇決勝

環太平洋大 2代―2 山梨学院大
先鋒 谷本 和◎優勢勝 加賀谷千保
次鋒 中里友理子 内 股◎連 珍鈴
中堅 ヌンイラ華蓮◎内 股 佐野賀世子

副将 高橋ルイ 引 分 馬場菜津美
大将 安松春香 優勢勝◎山部佳苗
代表 高橋ルイ◎判定 馬場菜津美

先鋒戦は、指導2で環太平洋大・谷本が優勢勝。続く次鋒戦では、開始1分、山梨学院大・連の内股が決まって一本、1―1となる。すると中堅戦で環太平洋大・ヌンイラが内股で一本を奪い、再び環太平洋大がリード。副将戦は激しい攻防が繰り広げられたが、両者技が決まらず引分ける。大将戦は山梨学院大・山部が指導2による優勢勝で2―2。勝敗は代表戦にもつれ込んだ。

代表は、高橋と馬場。序盤、積極的に攻める高橋に対し、技の出ない馬場に指導がつく。その後は互いに攻め続けたものの、ポイントのないまま試合が終了し、判定へ。高橋に旗3本揃い、環太平洋大が念願の初優勝を手にした。

◎環太平洋大・古賀稔彦部長

「上級生たちには『今年の歴史はお前たちが作るんだ、日本一になる姿を先輩たちに見せろ』、先輩たちには『先輩たちの日本一の姿をしっかく見てお前たちが引き継げ。それが



女子5人制決勝で次鋒の山梨学院大・連が内股を決めて一本取ると(上)、続く中堅戦で環太平洋大・ヌンイラ華蓮も同じく内股で一本(左)

伝統に繋がっていくんだ」と話して挑みました。今日は本当に歴史を作ってくれましたね」

◎環太平洋大・高橋ルイ選手

「代表戦はプレッシャーもあり怖かったのですが、みんなが自分を信じてくれているので、最後まで攻めて思い切って闘いました。来年もここにきて連覇したいです」

女子5人制決勝代表戦Ⅱ
高橋（左） 対馬場

女子3人制

29校がエントリー。3名の点取り式によるトーナメント戦で争われた。準決勝に駒を進めたのは、東京学芸大、名城大、鹿屋体育大、旭川大となった。

東京学芸大対名城大では、先鋒、大将は引分ける。中堅戦で一本勝した名城大が決勝へ。鹿屋体育大対旭川大では、先鋒は勝負がつかず引分け、中堅戦で鹿屋体育大・石橋が小外掛で有効を奪い、大将戦も鹿屋体育大・古賀が旭川大・小川を袈裟固で抑込んで一本勝。決勝は名城大と鹿屋体育大の対戦となった。

◇決勝

鹿屋体育大 2―0 名城大

先鋒 長野希美 引分 上田聖奈
中堅 石橋貴穂◎優勢勝 古木里香
大将 古賀ちなつ◎上四方固 小城 茜

先鋒戦、名城大・上田は指導を与えられると、直後に小外刈で有効を取る。しかし上田に2つ目の指導がつき、引分に終わる。中堅戦では石橋に指導、古木も後半に指導が2回

重なり、石橋が優勢勝。大将戦は開始約1分、背負を仕掛けた鹿屋体育大・古賀を名城大・小城が寝技に引き込もうとすると、古賀が逆に抑え込み、上四方固で一本。2―0で、鹿屋体育大が初優勝に輝いた。

◎鹿屋体育大・古賀ちなつ選手

「嬉しいですね。決勝は中堅が有効をとって良い流れで来ていたので、自分がしっかり勝ちを収めて優勝したいと思いました。連覇を目指していきます」

女子3人制決勝大将戦Ⅱ
古賀（右） 対小城

【大会結果】

◇男子

①東海大（東京） ②日本大（東京）
③明治大（東京）、国士舘大（東京）
▽優秀選手Ⅱ穴井航史（東海大）、羽賀龍之介（東海大）、中川裕喜（日本大）、原沢久喜（日本大）、六郷雄平（明治大）、小川竜昂（国士舘大）、金子亮平（筑波大）、橋爪謙（桐蔭横浜大）、下和田翔平（日本体育大）、小林督之（天理大）

◇女子5人制

①環太平洋大（中国四国） ②山梨学院大（関東） ③帝京大（東京）、東海大（東京）
▽優秀選手Ⅱヌンイラ華蓮（環太平洋大）、山部佳苗（山梨学院大）、前田奈恵子（帝京大）、土屋文香（東海大）

◇女子3人制

①鹿屋体育大（九州） ②名城大（東海） ③東京学芸大（東京）、旭川大（北海道）
▽優秀選手Ⅱ古賀ちなつ（鹿屋体育大）、古木里香（名城大）、堀いくみ（東京学芸大）、伊藤楓（旭川大）



待望の 単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世
英国柔道の基礎―武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史
仏蘭西への道
メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使 杉村陽太郎
続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道―独逸通信
東洋への進出
異文化理解の容易なさ

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜
嘉納逝き連盟成らず
欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔連会長に就任
世界柔道選手権大会開催
東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道
パリの仇
体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

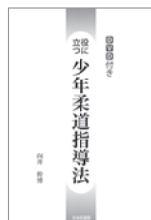
（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

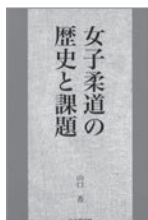


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は 素晴らしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）



女子決勝＝小森田（左）対高橋



男子決勝＝安藤（右）対浅井

◇全日本学生剣道選手権大会
◇全日本学生剣道東西対抗試合

◇全日本女子学生剣道選手権大会
◇全日本女子学生剣道東西対抗試合

男子 安藤翔 (国土館大)、女子 小森田渚 (大阪教育大) が 学生剣道日本一

第60回全日本学生剣道選手権大会、第46回全日本女子学生剣道選手権大会、第59回全日本学生剣道東西対抗試合、第6回全日本女子学生剣道東西対抗試合（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）は7月7日、8日の両日、日本武道館で開催された。

全国各地の予選を勝ち抜いた精鋭により争われた選手権では、男子で安藤翔（国土館大）、女子で小森田渚（大阪教育大）が優勝した。東西対抗試合では、男子で東軍（2人残り）、女子で西軍（大將戦まで）が勝利した。また、全日本学生剣道連盟が設立60周年を迎えたことを記念して、初日の大会終了後、東京・飯田橋のホテルグランドパレスで祝賀会が行われた。

□選手権大会

7日に女子（90名出場）、8日に男子（176名出場）の試合が行われた。トーナメント方式で、試合時間は男子5分、女子4分の三本勝負、時間内に決しない場合は、時間無制限の一本勝負による延長戦で争われた。

▽男子

ベスト4には安藤翔（国土館大）、中澤公貴（国土館大）、浅井亮（鹿屋体育大）、山本大喜（国際武道大）が勝ち上がった。

準決勝で対戦した安藤と中澤は、同じ大学の4年生。手の内が分かっていたのでやりづらかったという安藤だったが、離れ際の面と出小手を決めて二本勝ちした。

浅井と山本の対戦は、浅井が面で



男子準決勝＝浅井（右）対山本



男子準決勝＝安藤（左）対中澤

先制するも、山本が同じく面で取り返す接戦となる。試合時間3分過ぎ、浅井が鏑迫り合いから放った引き面が一本となり、決勝進出を決めた。

決勝、安藤対浅井は、序盤から鏑迫り合いが続く。残り30秒になり、ようやく技を出し合う展開となる。浅井は近間から引き面を放つが不十分。一方、安藤は残心でさがる浅井を追って小手を打ち、一本を奪う。終了間際には相面となり、場内が沸くも旗は上がらず。ちょうど時間となつて、安藤の優勝が決まった。

◇女子

今大会では、5月に行われた世界大会出場のため、予選に参加できなかった選手に対し、「選手権出場特別枠」が設けられた。これにより、松本弥月・高橋萌子（ともに法政大）の2選手に、本大会への出場が認められることになった。松本は前回準優勝ということもあつて期待されたが、怪我のため欠場。世界大会団体戦で活躍の高橋に注目が集まった。序盤戦では、前回1年生でこの大会を制した津田佳菜子（鹿屋体育大）

が初戦で敗れる波乱があつた。

四強には、関西予選で優勝の小森田渚（大阪教育大）、瀬沼あかり（東海大）、有馬七純（福岡大）、そして特別枠の高橋が名を連ねた。

準決勝、小森田対瀬沼は、両者決め手のないまま延長戦になる。延長開始後すぐに、小森田は瀬沼の起こりを狙って小手に切り、勝利した。

高橋と有馬の対戦は延長までもつれ、5分過ぎ、瀬沼が面に跳んだところで高橋が抜き胴を決めて、勝利。

決勝は小森田対高橋。初太刀で小森田が面に出れば高橋も負けじと面に返す。3分過ぎ、間合を詰める小森田に対し、さがる高橋は、退く足

を止めて面に出る。しかし、小森田はそれに対して一瞬早く反応し、面が一本。そのまま時間となり、小森田が優勝を果たした。

●男子優勝Ⅱ安藤翔選手（国士舘大）



●男子優勝Ⅱ安藤翔選手（国士舘大）

入れ替えが出来ずにいました。でも、4年生で学生最後ということもあり、今日はなんとしても一本取り返えそうと思ひました。悔いのない試合をするのが目標でした」

関東大会（予選）では、右親指骨折の影響もあり、思うような剣道が出来なかった。その結果、敗者復活戦でぎりぎりの予選通過だった。今大会でも2回戦から4回戦まで一本を取られ、苦しい試合が続いた。

「いままでは取られてから気持ちの

中学生の頃から実力選手として注目を浴びてきたが、今一步の所で頂点には届かなかった。国士舘大学の主将として迎えたこの大会では、前回優勝の藤岡弘径先輩の後を継ぎ、選手宣誓を行った。様々なプレッシャーを抱えていたのだろうか。「やつと日本一になりました」涙ながらに語ったこの言葉が、全てを集約していた。



女子準決勝Ⅱ小森田対瀬沼
小森田（右）の小手が決まる



女子準決勝Ⅱ高橋対有馬
高橋（左）の胴が決まる



●女子優勝Ⅱ小森田渚選手（大阪教育大）

「応援してくれるみんなのために頑張りました。決勝の面は、体が勝手に反応して出た技でした。4分間という試合時間の中で、自分の技を最後まで試したいと考えていました」

▽男子

しかし、宮本は抜き胴で杉下を返り討ちにし、その後も2人抜く。さ



らに東軍は、6将の菊地裕志（日本体育大）が3人抜きし、西軍大将の加藤正矢（大阪体育大）と対戦する。

ここで加藤は大將の意地を見せ、菊地を返り討ちにして3人抜きをみせるも、東軍3將の足達翔太（明治大）に小手を奪われ、敢えなく敗退。2人残して東軍の勝利が決まった。

●東軍先鋒Ⅱ竹ノ内佑也選手（筑波大）



1年生ながら先鋒で3人抜きの活躍。個人戦でもべ

スト8に食い込んだ。

「このポジションでも出るなら」
緒です。思い切ってやるだけです。
得意技は面です。個人戦の結果は満
足していません。もう一つ勝ちたか
ったです」

●東軍中堅Ⅱ宮本大幹選手（中央大）



「自分の剣道を貫こうとだけ思っている。中堅とした。」

いう重要な役割をいただいたので、ちよつとでもチームに貢献したかったです。優秀選手賞も狙っていました」

24

▽女子

東軍先鋒の高橋萌子（法政大）が2人抜きすれば、西軍7将の矢ヶ崎友香（関西学院大）も2つ取り返す。両軍互角の展開となり、勝負の行方は大将戦へ。



西軍大将・阿久津津対東軍大将・山口阿久津（右）が延長戦で面を決める

【大会結果】

■選手権大会

- ◇男子Ⅱ①安藤翔（国士舘大）※大学として2年連続11回目②浅井亮（鹿屋体育大）③山本大喜（国際武道大）、中澤公貴（国士舘大）
- ◇女子Ⅱ①小森田渚（大阪教育大）※大学としては4年ぶり2回目②高橋

西軍阿久津麻里（立命館大）対東軍山口美紀（筑波大）。大将同士の戦いは延長までもつれたが、阿久津が遠回しから面に跳び込んで一本。西軍の優勝が決まった。



●東軍先鋒Ⅱ高橋萌子選手（法政大）

「先鋒としてチームの勢いをつけられるように、一生懸命やりました。この大会は、大学生になって初めての試合だったので、とても緊張しました」



●西軍大将Ⅱ阿久津麻里選手（立命館大）

「大将を任せられると知ったときは、『どうしよう』と不安でした。でも、今日の試合は学生剣道の集大成だと思って、思い切って技を出しました」

萌子（法政大）③瀬沼あかり（東海大）、有馬七純（福岡大）

■東西対抗試合

- ◇男子Ⅱ東軍が2人残りで勝利（東軍42勝16敗1引き分け）
- ◇女子Ⅱ西軍が大将戦で勝利（西軍4勝2敗）

◇全日本女子学生剣道東西対抗試合（監督・助監督は男子と同じ）※名前上部の○は優秀選手賞

東軍							西軍（大将戦により勝利）						
	氏名	学年	学校名	各試合結果			氏名	学年	学校名				
先鋒	○高橋 萌子	1	法政大	○	○		藤本 美	3	鹿屋体育大				
次鋒							芝田 幹江	3	広島大				
8将	谷山奈津美	3	北海道大			×	安河内かおり	3	福岡大				
7将	津野佑実華	2	新潟大			㊦	○矢ヶ崎友香	4	関西学院大				
6将	渡部 滯	4	東北福祉大		×	㊦							
中堅	酒井 美保	3	小樽商科大		×		太田 歩	4	中部大				
4将	末弘 夏菜	2	国士舘大	×		○	小森田 渚	3	大阪教育大				
3将	高橋 愛子	4	日本体育大		×		園山 由華	3	広島文教女子大				
副将	菊池 香織	4	東北学院大			㊦	○岩谷 千裕	4	朝日大				
副将	荒谷 直子	4	東海大	×									
大将	○山口 美紀	4	筑波大	○		○	吉永 有里	4	近畿大				
							○阿久津麻里	4	立命館大				



毛利平副会長の発声により乾杯

全日本学生剣道連盟 設立60周年記念祝賀会が行われる

全日本学生剣道連盟設立60周年記念祝賀会が7月7日、東京・飯田橋のホテルグランドパレスにて関係者約200人を集めて行われた。開会にあたり、始めに鳥居泰彦会長が挨拶。次に松永光日本武道館会長、広田勝己毎日新聞社事業本部長、加賀谷誠一全日本剣道連盟副会長が来賓挨拶。続いて毛利平副会長の発声により乾杯が行われた。

会の途中では加藤正啓学生常任理事により、3月に記念事業として実施された日欧交流親善使節団の報告がなされた。その後、佐藤成明関東学生剣道連盟会長により中絶が行われた。学連役員ほか、関係者が歓談にふける中、祝賀会は盛會裡に幕を閉じた。

好評発売中



スポーツドクター 辻 秀一 著
四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、
芸術である、コミュニケーション
である、教育である」とする筆者が、
指導者のために書いた良きハンド
ブック。ぜひ、ご一読を。



主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

ほんとうの価値の伝え方

武道スポーツの真髄



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）